

米ハイテク株急落と今後のポイント

シニア・ストラテジスト 石黒英之



ポイント① 米ハイテク株が急落

5日の米国株式市場で、主力ハイテク株で構成されるNASDAQ100が前日比3.1%安と大幅安となりました。きっかけは、5日に公開された昨年12月開催のFOMC（米連邦公開市場委員会）議事要旨です。市場がFRB（米連邦準備制度理事会）の政策姿勢に警戒感を示したのは、ほぼ全ての参加者が「最初の利上げ後にバランスシートの縮小を始めることが適切になるだろう」と考えていたことが明らかとなったためです。市場の想定以上に金融引き締めに積極的なタカ派姿勢が示されたことで、「米長期金利の上昇・期待インフレ率の低下→米実質金利が上昇→バリュエーション面で相対的に割高感のあるハイテク株売り」という流れとなりました。NASDAQ100の12ヵ月先予想PER（株価収益率）と米実質金利は連動する傾向が強かっただけに、同金利の上昇が今後も継続するようだと、ハイテク株の重しになる可能性があります（右上図）。

ポイント② 企業決算がターニングポイントに

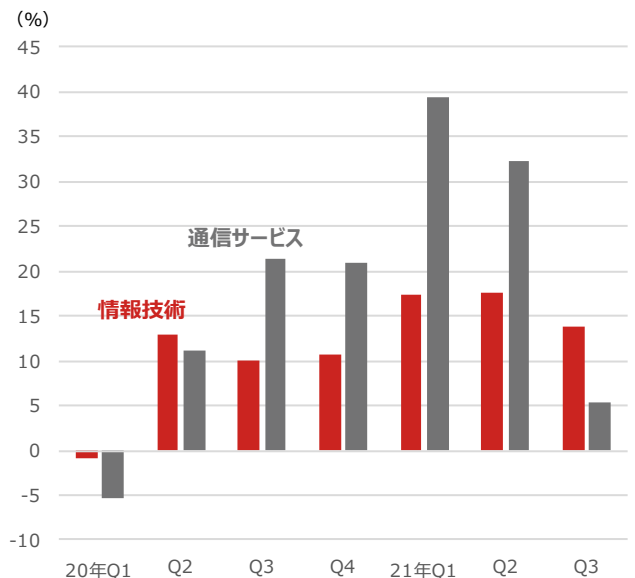
ただ、株価は短期的に実質金利の影響を受けたとしても、それを上回る企業の利益成長が実現できれば、実質金利上昇と株高は併存するといえます。その意味で焦点となるのが、今後本格化する米主要企業の2021年Q4（10-12月期）決算発表です。情報技術や通信サービスなどハイテク業種の決算内容は、事前予想に対し、実績値が上振れる傾向が強く（右下図）、今後の決算内容も同様の展開となると、業績面での見直し余地が出てくると想定されます。短期的にはFRBの金融政策姿勢や、それに伴う金利動向に左右されやすい展開が続きそうですが、NASDAQ100の利益成長期待は高く、冷静に下値を拾うことも重要と考えます。

米実質金利とNASDAQ100の12ヵ月先予想PER



期間：2018年1月5日～2022年1月5日、週次
 ・米実質金利：Bloombergジェネリック米10年物価連動国債利回り
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

EPS（1株当たり利益）成長率の事前予想と実績値との差



期間：2020年Q1（1-3月期）～2021年Q3（7-9月期）、四半期
 ・事前予想は決算期終了直前週の数字を使用
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。